

# ポンピン温泉 うまじ IN 湯けむり



コミュニティセンター  
馬路温泉 支配人  
林 義人



特集

5

高知県

## 馬路村と馬路温泉

「みんなあ、ごつくんやりゆうかえ!?」馬路村の小学生が元気に登場するCM也大ヒット。人口900人、高知県の山の中から柚子の加工品をどこよりも先に全国へ知らしめ、くねくね道のどん詰まりにある馬路村へわざわざ足を運んでくれるお客様もうなぎ上り。老人クラ

ブや自治会の日帰り旅行先だったコミュニティセンターは、柚子商品のパッケージにイメージを膨らませて全国からやって来始めました。

昭和54年8月に開館したコミュニティセンターうまじ（馬路温泉）は地域住民の福祉と交流の場として営業がはじまりました。開館当初の従業員、「いらっしやいませ」が「今日はどういたぞね（どうしたの）」「ありがとうございまりました」は「気をつけて帰りよ」という調子。サービスというよりは診療所の雰囲気。玄関で診療所調の窓口から覗き込むように受付をしていましたが、流石にフロントの場所も変わりました。そして、平成に入り、柚子商品が全国へと販売され、次第とイメージを膨らませたお客様が馬路村へ来村し始めます。馬路村に来ると、立ち寄り先は必然と馬路温泉になり、食事や入浴、宿泊をされるようになります。その時に、柚子商品のパッケージの可愛らしい子供達、笑顔にこのおんちゃん、おばちゃんの優しい言葉を期待してきたお客様は「???」「???」あれ、あれれ。となります。

配人に抜擢されました。心にあったモヤモヤをこの時ばかりは発散させなければと、アクセル全開です。

## 湯けむりポンピンうまじ温泉

その一つが「湯けむりポンピンうまじ温泉」の開催でした。温泉地と言えば、浴衣姿で卓球というイメージがあります。これを是非馬路温泉でもやりたいと思い、直ぐに始めました。また、馬路村では木の団扇を作っていましたので、これはラケットになると、直感しまし



ピンポン団扇

た。馬路温泉独自のルールを作り、第一回目を開催しました。参加者のユニ